

## 第10回 みやぎ・やまがた

# 地域を超えてチャレンジする女性の交流会

## 分科会 つなげよう！ ～人の輪・情報(ちえ)の輪～

コーディネーター：名和玲子

参加者数：9名（宮城 3名 山形 5名 福島 2名）

- ① **自己紹介**：宮城、福島の方は震災体験から、「繋がる」事で人の温かみに接した。山形の方は、仕事やボランティアを通し「繋がり」で活発な活動ができた。
- ② **つながる事の意味**：人は、つながる事で多くの「宝」に出会い、又その先の人間関係により豊かな人生を送ることが出来る。
- ③ **進行**：コーディネーターとして、私がこの会と出会った経緯をご紹介。  
（私が東日本大震災支援事業を行っていることから、震災後初めて開催されたこの会に、当社アーティストを呼んで頂いた。）  
そしてつながった事例としては、当社が支援から始まったスペインとの文化交流が、私の故郷「米沢市」が日本とスペインの交流きっかけをつくった「支倉常長の生誕地」でもあった事をご紹介。偶然と思っていたご縁は必然であり、自然につながるご縁こそが人の輪をつくるのではとお話した。  
◆福島の理容師さん～震災後の影響で個人商店は、経営の危機にさらされたが、商工会議所や町興しの組織に入り存続。つながることの重要性をお話された。  
◆宮城のアロマスクールさん～震災後、県外からのボランティアさんの活動により、美容師、整体師などそれを生業にしている方々の仕事がなくなり自殺に追いこまれたり、故郷を離れざるをえなくなり人口減少がおきている。マスコミに訴えても取り上げないため、人から人への情報発信を行っている。
- ④ **今後の活動への提案**：「つながる」為に、時代にあったもので発信する必要があり、ツイッターや facebook、ブログなど SNS の存在は大きい。しかし、古典的な手法である女性本来の口コミも大切であり、「つながる」時に気を付けることは、情報の正確さである。
- ⑤ **コーディネーターの感想**：大惨事である震災は悲しい出来事ですが、「東北ルネッサンス」と考え、東北の素晴らしい文化、歴史を国内外に発信する機会でもあり、生き残った方々が苦しまないように、また「支援ボケ者」を出さないためにも国の早期復興を願うものであり、私たちは風化をさせてはいけないと実感した。東北人が東北を語り復興の手助けをする、この会の益々の重要性を感じました。